ネパール大地震

現地から緊急写真レポート

4月25日、ネパールをマグニチュード7.8の大地震が襲った。地震発生から12日が経過した5月7日現在で、7900人以上の犠牲者が出ている。首都カトマンズをはじめ人口密度の高い都市部では、余震を恐れ、今でも屋外で寝泊まりする人が多くいるが、テントなどの物資が不足している。また、山間地域では、交通の便が悪く、食料や水、毛布、医療品など、あらゆる物資が届いていない状態だ。
地震発生直後の被害状況をお伝えする。

写真／岩波友紀
Photo by Yuki IWANAMI

自宅前に座り込むシュシラ（12歳）は、瓦礫の中から自分の帽子を見つけた。彼女の集落の家はすべて崩れ落ちた。首都カトマンズから東のドラカ郡。2015年5月5日

倒壊した自宅から母親が遺体で発見され、嘆き悲しむ娘たち。周辺は、煉瓦と木で作られた古い家並みが崩れ、まるで爆撃されたかのように廃墟と化していた。首都カトマンズ近郊バクタプル。2015年4月29日

倒壊した自宅から女性の遺体が発見された。すぐに息子らの手によって火葬場に運ばれた。この地域では、川沿いに並ぶ通常の火葬台では数が間に合っていなかった。中州や近くの空き地で次々と立ち昇る煙の数が犠牲者の数を物語っていた。バクタプル。2015年4月29日

地震発生から6日目、倒壊したゲストハウスから15歳の少年が救出された。カトマンズ。2015年4月30日

いわなみ・ゆき

1977年長野県生まれ。大手新聞社のフォトグラファーを経て、フリーランスのフォトジャーナリスト。福島市に居を構え、東日本大震災と福島第一原発事故の取材も続ける。コニカフォトプレミオ、Prix de la Photographie Paris 金賞、Critical Mass Top 50など受賞。オンライン新聞「The PHOTO JOURNAL」主催。

公園に張ったテントで過ごす住民たち。自宅が壊れた人たちに加え、余震におびえて自宅に戻らない人たちで広い公園などがテントでいっぱいになっていた。カトマンズ。2015年4月30日

［ネパール大地震緊急支援団体情報］

（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）のホームページで、緊急支援団体一覧をご覧いただけます。

掲載団体は、NGOサポート募金「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」加盟団体。

http://www.janic.org/bokin/matomete/matomete18.php